

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

平成 28 年度活動報告書・平成 29 年度事業計画概要

センター	名称:ジェンダー社会科学研究センター ウェブサイト: <a href="http://gender.soc.hit-u.ac.jp/">http://gender.soc.hit-u.ac.jp/</a> 学内活動拠点・同電話番号:貴堂研究室 別館2階 042 (580) 8492
報告者 (センター代表者)	氏名: 佐藤 文香 電子メール:fumika.sato@r.hit-u.ac.jp
報告書提出年月日	2017 年 4 月 4 日

平成 27 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2016年度は、代表(佐藤文香)、教育部門総括1名(太田美幸)、研究部門総括3名(伊藤るり、貴堂嘉之、森千香子)、総務・財務部門総括1名(坂なつこ)と、共同推進者21名(井川ちとせ、大河内泰樹、尾崎正峰、木本喜美子、小井土彰宏、洪郁如、ソニア・デール、坂元ひろ子、中野聡、山田哲也、越智博美、河野真太郎、竹内幹、イ・ヨンスク、中井亜佐子、横山泉、井上間従文、柘植道子、長塚真琴、Chris Ahmadjian)の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

ジェンダー教育プログラム(GenEP)部門では、2007 年度より全学的なプログラムを提供してきた。学部基幹科目群を 9 科目、大学院基幹科目群を4科目、学部連携科目群として 29 科目、大学院連携科目群として 7 科目、合計 49 科目を提供した。履修者数は 3666 名(ただし学部生のみ)であった。全体としてプログラムの科目群はより充実し安定した運営を行うことができているといえる。また、2012 年度に開始した女性学・女性史研究者の第一世代に対するライフストーリーの収集・記録プロジェクトを継続する形で立ち上げた、先端課題研究 14「ジェンダー研究の過去・現在・未来 ―女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」は開講3年目となり、13 名が参加した。

2.2 研究実績

本センター構成員の個々の研究実績は多岐にわたるため、代表および部門総括の業績の一部を掲載する。  
佐藤文香、2016「軍事化される『平等』と『多様性』」『ジェンダー史学』12号、ジェンダー史学会  
佐藤文香、2016「軍事化に取り込まれる『女性活躍』」『女たちの21世紀』86号、アジア女性資料センター  
伊藤るり、2016、「モダンガール現象と女たちの新しい卓越感覚」(第II章 女たちの新しい表現)沖縄県教育委員会『沖縄県史 各論編7 女性史』。  
伊藤るり、2016、「拡大する家事・介護分野の移住労働と人権保障——世界の動向・日本の課題」『Migrants Network』189号。  
伊藤るり、2017、「共和国的統合コンセンサスへの挑戦とその帰結——サルコジ政権下の「選択的移民」政策」小井土彰宏編『移民受入の国際社会学』名古屋大学出版会。  
兼子歩、貴堂嘉之編『「ヘイト」の時代のアメリカ史-人種・民族・国籍を考える-』(編著)、彩流社、2017.1  
貴堂嘉之「サンフランシスコ-西部開拓・帝国都市・近代-」羽田正編『ミネルヴァ世界史叢書1 地域史と世界史』ミネルヴァ書房、2016.10  
貴堂嘉之「アメリカ学会の学会活動50年史」『アメリカ研究』別冊 50周年記念特別号、アメリカ学会、2016.12

2.3 外部機関等との連携および社会貢献の実績

### 【外部機関等との連携】

外部講師を招聘し、下記の講演会、記念シンポジウムの開催、および国際シンポジウムに協賛した。

①公開レクチャー・シリーズ(第35回)2016年6月17日

講師:多賀太、タイトル「錯綜する〈男らしさ〉のポリティクス—プロ・フェミニスト運動の可能性と課題」司会:佐藤文香(国内交流セミナー(社)) 参加者:50名

②公開レクチャー・シリーズ(第36回)2016年7月6日

講師:竹山明子、タイトル「誘惑の舞台:夢を売る商売—東京ホストクラブ」司会:ソニア・デール(国際交流セミナー(社)) 参加者:39名

③公開レクチャー・シリーズ(第37回)2016年10月14日

講師:イルゼ・レンツ、タイトル「現代ドイツにおけるフェミニズムと反フェミニズム運動」、司会:大河内泰樹(国際交流セミナー(社)) 参加者:33名

④公開レクチャー・シリーズ(第38回)2016年11月18日

講師:遠藤まめた、松岡宗嗣、タイトル「大学・教育とセクシャルマイノリティ(LGBT)—大学にできる支援について考えよう」司会:ソニア・デール、大島岳(国内交流セミナー(社)) 参加者:83名

⑤国際ジェンダー学会 2016年大会(CGraSS 創立10周年記念) 2016年9月10日(土)

シンポジウム「大学におけるジェンダー研究センターの来し方・行く末を考える」

⑥国際シンポジウム「移住・家事労働者の権利保障とILO 189号条約—アジア、ヨーロッパ、アメリカ、そして日本」(協賛) 2016年12月10日(土)・11日(日)

### 【社会貢献】

公開レクチャー・シリーズは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っている。レクチャー・シリーズは常に50名前後の参加者を集めており、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。

### 2.4 外部資金獲得実績

なし

### 3. 平成29年度事業計画概要

平成29年度は、下記の3点を行うこととする。

(1)ジェンダー教育プログラムの安定的な運営を行う。

(2)共同推進者の協力を仰ぎつつ、公開レクチャー・シリーズを企画・実施する。

(3)先端課題研究14「ジェンダー研究の過去・現在・未来—女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に」は、叢書を9月に刊行する。

### 4. 平成29年度における組織改廃計画

本センター規約(2010年4月1日施行)に基づき、2017年1月11日の運営協議会において、次年度の代表および各部門総括の選出を行い、下記のように選出された。

(代表)坂なつこ、(教育部門総括)洪郁如、(研究部門総括)貴堂嘉之、伊藤るり、森千香子、太田美幸、(財務・総務部門総括)佐藤文香

また、加藤圭木(社)が新たに共同推進者に加わった。

### 5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)